

原稿
再生荒を
削りけいめ
ぬ

1

日本教育の再生荒のため

日本教育の岐路に立つ

小倉金之助

教育は新しい世界史的展望を背景とし、
歴史的・社会的

問題意識の
廣い視野の下に、
再生荒の
再生荒の
再生荒の

2
の要にお応ずるために、
日本の政治・経済、

社会・思想の各方面における経験を分析し、

日本教育の社会的な位置と問題とを明かす

ることから出発し、つぎにその状況の中にお

ける教育本来の問題、
現場の経験と結びつけ

てから解剖し、
いよいよ再生荒の
下ん生小

構想

たのびである。

『世界と日本』

この第一巻では(1)『現代文明論』

清水幾太郎氏、世界の危機、

本人が握る鍵について、(2)『戦後の』

世界情勢に、(都留重人氏)米ソを中心

とする口際情勢の全貌、経済的・政治的・

社会報告をする。(3)現代の性格と

その分析として、原子力と平和(田中恒次郎氏)

二つの世界と口遊(入江啓四郎氏) 花

さしたるアジア(巖山芳郎氏)の三篇が

あり、

終りに ^{かよ} ~~社会論~~ 社会論 渚内論 を 背景として

(4) 「教育に在るを期待できるか」

(勝田宇一氏) ^{田の結語は} 勝田氏の答は 〇うである。

「日本の教育は、アメリカの進歩主義教育の

人向解放的を方向づけとその科学性とを学ぶ

べき多くのものを発見するべきであり、また

の信條である民主主義に徹すべきであろう。

それは日本の社会的条件の中で国民大衆の ~~経~~

験と要と問題にとりくみ、それをくぐり

抜け、自己をきたえあげて行く過程を通じて

を捨てよう 勝田氏

打ち書き
原稿

すぐれた執筆者があらうと、
たばうらびなく、

はじめ、日本人の解放のため、教育となり、

また大きく転回しつつある世界の動向と歩み

をともしする平和と解放と独立のため、奉仕

す。教育への成長す。いあるう。た力作であ

本書を流し、
本書の流し、
どの項の項目、
執筆者の異、
拘わら

あ、おなじ思想、精神のよつて、
おなじ思想、精神のよつて、
おなじ思想、精神のよつて、

内容は互に助けあひ、
内容は互に助けあひ、
内容は互に助けあひ、

る調和が、
る調和が、
る調和が、

い。たが、
い。たが、
い。たが、

向徑への対する理解と批判を、
向徑への対する理解と批判を、
向徑への対する理解と批判を、

多数の

4

て、

本講座の

成印を

期待す

るもの
である。

は音程の書
の種便

6 最近

何といつても本講座の構想は非常にいい、
これはよく生かして、教師たちの現
在の精神

力だけでは買収して、そのでき
る支柱を作りあげたい、その教
育の革命のまっただ中にある

を不^ふと^ととい^いうの^のは、
田氏の論文は、
アメリカ側の教育論のみに
対する批判のみが多く付えられ、

ソ連の教育論は、
物中^{ぶちゅう}り^りない^{ない}気がする。
田氏の論文は、
アメリカ側の教育論のみに
対する批判のみが多く付えられ、

田氏の論文は、
アメリカ側の教育論のみに
対する批判のみが多く付えられ、

アメリカ側の教育論のみに
対する批判のみが多く付えられ、

ソ連の教育論は、
物中^{ぶちゅう}り^りない^{ない}気がする。

田氏の論文は、
アメリカ側の教育論のみに
対する批判のみが多く付えられ、

日本一史講座
の「史教言集」
の「世界の旅」
を読んで、
感激しつつ

私の生垣の和書
の「世界の旅」
を読んで、
感激しつつ

同刊行会「史」
の「世界の旅」
を読んで、
感激しつつ

同刊行会「史」

一巻の出来栄